

大阪薬科大学広報委員会

## オキナグサ

オキナグサ *Pulsatilla cernua* Spreng. は日当りのよき草原に生えるキンボウゲ科 Ranunculaceae の多年草で全草白色の絹のような毛でおおわれている。春、根生葉が広がる前に花茎を出し花を着けるが、花は1個が頂生し横向きで咲く。キンボウゲ科の植物は花卉が萼片より小さくなり蜜を分泌する器官になっていたり、無くなっていたりするものが多く、代りに萼片が美しい色彩を持ち花弁のように見えるものが多い。このオキナグサも同様で萼が花弁様になり暗赤紫色ないしは赤褐色をしており、外面には白絹毛が密生している。花期が終ると多数ある雌しべの花柱部分と花柱に密生する白毛が伸びて羽毛状になる。さらに花茎も3~4 cmくらいまで伸び、果実は完熟すれば白毛の密生した頭状になる。この様子を白髪に見たててオキナグサ(翁草)の名前がつけられたのである。中国にもこのオキナグサやこれに近い種類があり、白頭翁 *Pulsatilla sinensis* (Bge.) Reg. (日本名、ヒロハオキナグサ)、興安白頭翁 *P. dahurica* (Fisch.) Spr. と名前をつけられているが、その形状から全く同じ発想でつけられた名前と推察され



る。これらオキナグサ、ヒロハオキナグサ等の根は白頭翁の名で生薬として用いられ、消炎、収斂、止血、止瀉等の薬効が挙げられている。漢方処方としては黄連、黄柏、秦皮と共に配合して用いる白頭翁湯が代表的なものであり、熱性下痢の際に温服する。その有効成分については未だ明確ではないが、サポニン、フィトステロール、アネモニン等が本属植物から単離報告されている。このオキナグサは華やかさはないが、なかなか趣きのある草花であり、山野草愛好家に愛でられる山草である。かつて伊吹山の三合目あたりの草原によく見られたが、山草ブームによる集採者がふえたせいか非常に少なくなった。植木園芸店の山野草コーナーでもよく見られるが、近縁種のヨウシュオキナグサも一緒に販売していることがある。この方は花の色が淡青紫色でオキナグサより明るい華やかな感じを与える。本学にも中庭温室の南側西寄りにオキナグサとヨウシュオキナグサが少し植えてあり毎年可愛らしい花を咲かせている。

(小澤 貢)





# 新入学生を迎えて

学 長 堀 田 輝 明

▷ 伝統のある大学 明治37年、日露戦争の始まった年、道修町の一角で西洋科学技術としての薬学の初歩を薬問屋などで働く人たちが、ランプの灯の下で学びはじめた道修薬学校が本学の出発です。それから数えて、米年はちょうど80周年の記念すべき年となりますが、その間、場所を少し変えており、前身の帝国女子薬学専門学校がこの高見の里に移って来ましたのが昭和7年、正門を入れて正面の建物（本館）はその時のものです。

昭和25年新制大学となり、男女共学の薬科大学として今日まで多くの卒業生を世に送り出して来ました。古い歴史と伝統に支えられたこの名門の薬科大学に、新しく諸君諸嬢を迎ええたことを、日本の社会のためにも、本学のためにも喜びたいと思います。

▷ 広い薬学の領域 薬学は応用科学のうちでも、生命科学の非常に大切な分野を占める重要学問です。薬という化学物質の構造を理解すると共に、その生体への働きを明らかにして行くものです。日本の薬学は基礎に化学をおき、薬の創製とそのため研究に長年精魂を傾け、化学的解明によって薬の成分を明らかにして、新しい薬を次々と合成して来ました。

さらに今日では薬の投与と生体の関係を詳細に究明することが重要課題となり、生物学・医学との連関での教育・研究が一層すすめられて来ております。非常に幅広い領域にかかわりをもつ学問ですから、多くのことを学んで頂かねばなりません。間口の広さにおどろきを感じられることと思いますが、思い切り勉強して頂きたいです。

しかも本年入学の皆さんから、カリキュラムを一部改正して、基礎学力の充実をはかりながら、薬学の新しい学問分野をどしどしとり入れて、社会の要請に応える薬剤師を養成したいと考えています。進級卒業のための試験制度も変更して、整理しましたから、誤解のないように、教務部のガイダンスに従って下さい。

▷ 人間を磨こう 大学は教育・研究を通じて、皆さんの人格の陶冶を考えています。今日多くの社会問題と

なっています。医や薬をめぐる倫理問題には、人類の科学の進歩と、人間の従来の常識や願いとギャップから生まれて来る矛盾ととまどいの問題を数多く含んでいます。同時にその方面の仕事に従事する人間の人格的な品性、良識の欠落から生じてくるなげかわしい類の事柄も時には存在しています。

知識をたくさん持っているとか、実験のテクニックが巧みであるというだけでは、大学教育を受けた人間としては不十分だと考えています。教養ある人間、知性のある人間になって頂き、事に処してのすぐれた判断力を培うとともに、対人関係において他者に迷惑をかけず、人に後指をさされないだけでなく、すすんで人のため、世のために尽しうる人間となるよう、身の処し方を考えるようになって頂きたいと思います。

また物事を考えて行くときにも、大所高所から眺めるゆとりを育てながら、自由でのびのびした構想力、発想力をもつようにして、意識的に考え方、解決方法の転換を試みられるなど、袋小路、迷路からの脱出が自力でできるような力をつけて貰うのも、大学での貴重な勉強でありましょう。

▷ 薬の専門家になろう 薬学を学んで四年間に修得できるものだけでは決して十分ではありませんが、それをもとにして薬剤師の資格をとり、病院・企業・官公庁研究機関などでその後も研鑽を続け、薬の専門家になって行ってほしいと思います。日本の薬学・医療の最前線に立つ薬剤師・研究者として活躍して貰うためにも、非常に多くのものを貪欲に吸収して欲しいものです。

大学に入ったのだから、一つのんびりというのとは、心のゆとりのことであって、勉強自体はいますぐにはじめてほしいと思います。春假の中で眠ってしまっただけは大学生活そのものが無為と化してしまいます。充実した日々を送るにだてを考え、よき友をえて、将来、医師が教養を請いにくる薬の専門家になるための道をしっかり歩きはじめられんことを期待します。

# 新入生を迎えて

教務部長 沼田 敦



新入生諸君、ご入学おめでとうございます。薬学という学問を志し、今その入口に立って希望に満ちた未来に向けてスタートを切ろうとしている諸君を心から歓迎いたします。

大学は今までのようになにかに追いたてられるような勉強でなく、自分の学びたい学問を自主的に学び、真理を探究する場です。そのためにはまず広い分野にわたって基礎的なことを学ばなくてはなりません。基礎的学問を学びつつ、薬剤師として将来何をし、どの道を歩むかを考え、高い目標を掲げて前進して欲しいと思います。高い目標をもつことによって大学での研學に気力があふれ、喜びと楽しみを見出すことが出来ると思います。今日薬学の進歩と共に教育内容が増え、専門化、多様化する職域で対応できる実力と見識をもつ薬剤師の養成が求められて6年制が論議されて

おり、薬学教育の転換期を迎えようとしています。そのなかで、本学も今年度からカリキュラムが改訂され、実施の運びとなりました。本学では従来から教養・専門課程の区別なく、1回生から専門科目が開講され、早くから薬に親しむ機会に恵まれています。また、専門科目では国家試験という共通の目標があるために、選択科目は数多くありませんが、将来の進路がほぼ決まる4回生に集中しています。4回生後半は特別実習と国家試験の準備が重なって非常に忙しくなりますが、これは国家試験のある薬学の宿命です。

本学はまた学年制を採用し、進級に関する規定が学科履修規程に盛り込まれていますが、これも今年度から改訂されました。前・後期1回ずつの本試験の不合格者に対して再試験が行われ、その結果未取得科目が5科目以上の場合には進級できません。また病気等で受験出来ない場合に行われていた追試験は廃止されました。その他細部に変更がありますので学生便覧をよく読み、疑問点はアドバイザーの諸先生や教務部に問い合わせ、対応されることを望みます。

学生生活のなかで、社会の矛盾、人間性の矛盾に直面し、人間とは何か、どう生きるべきかと思案し悩むことも大切であり、二度と還らぬ学生時代に悔のないよう若き力の限りを尽されんことを期待します。

## 新入生におくる

# 新入生を迎えて

学生部長 小澤 貢



新入生の皆さん、御入学を心より御祝い申し上げます。大学受験の掛け声に追い回された長い苦しい日々を乗り越え、ようやく明るい希望に満ちた春を迎えることになり、ほっと一息ついておられることと思います。

学校生活の締めくくりである大学、深い教養と専門的知識を培う場として本学に入学されましたことを心より歓迎しますとともに皆さんがこれから過す四年間をしっかりした目標のもと悔いの無い充実した学生生活とされることを心より願っております。

皆さんが薬学を選ばれた理由はいろいろあると思いますが、これから身につけられる学問は人の命にかかわるものであり、その面での専門家である薬学士、薬剤師を

目指す学問であります。専門的知識を身につけ、さらに社会の要求に答えることができるような幅広い教養と精神面での強さを同時に身につけて頂く必要があります。

複雑に錯綜しながら急速に進展する今日の科学はともすれば人間性の喪失を引き出しかねません。これから精神的、肉体的に成熟期に向う皆さんは、この複雑な流れに翻弄されることなく、その流れをよく見極める深い洞察力を養い、人間性の向上を目指して頂くこともまた必要なことです。

四年という年月は比較的長く感じられます。その間に紆余曲折もあるでしょう。かといってその場その場で適当に考えるというにはあまりにも短い期間です。大学生生活へのスタートに立つ今、皆さんは一応の目標を立てる必要があります。勉学面での目標、クラブ活動、サークル活動における目標など、自己の可能性を追求できる学生時代の目標はそれに振り回されることさえなければ少しくらい大きくてもよいと思います。

しっかりした目標を持ち、勉学に、クラブ・サークル活動に、先生や先輩の話を聞き、友人と大いに語り合っ内容豊かな学生生活を送られることを期待しております。

# 就任に際して

就職部長 酒井 清



日本経済がこれまで世界に例のない高度成長を続けてきたことはよく知られておりますが、石油ショック以後、それまでの高度成長からいわゆる安定成長の時期に入ってきました。とりわけ第二次石油危機以降の景気回復のテンポ

は極めて鈍く、最近では回復というより停滞といったとも考えられます。

業学関係においても新設大学が増加し毎年大量の卒業生が出る現在厳しい現実と直面せざるを得ないのではないかと思います。学生諸君も卒業後の自己の進路については入学以来重大な関心を持っていると考えられます。しかしながら卒業時の職業の選択を誤ると、実社会での第一歩からつまづくこととなります。職業の選択にあたっては、少なくとも経済的、個人的、社会的という

この三点を踏まえて考慮することが大切であります。自己の人生にとって職業に就くことが、どのような意味を持つか、自己の人生観に結びつけて考えてみる必要があると思います。日本の企業には終身雇用の考え方が根深く残り、これはアメリカのような転職に対する一般的な考え方や転職を前提にした雇用契約のあり方とは根本的に異なるものであります。従って企業選択のあり方としては自らの人生を託せるかどうかにあるといえます。安易な気持ちで自分の意志に反して企業の選択をしていないか、特に女子の場合企業名にこだわりすぎ、一般に希望が高すぎる傾向にあると聞いております。求人側の求める条件に合ったところを選んでいくかどうか、これらを自分なりに、もう一度チェックすることが必要ではないかと思われま

す。学生諸君は在学中より、心身とも健全であることは言うまでもありませんが、協調性を持ち、創造的意欲にあふれ、勇気と若さとバイタリティーによって積極的に行動する精神を培うことが大切ではないかと考えます。

拡大教授会において思いがけず就職部長に選任され、就任早々にこれからの方針につき私なりに目下考慮中ですが、理事長はじめ教職員各位、学生諸君の御支援、御協力をお願いしたいと存じます。

## ⇒ 新入生 ガイダンス

### 教 務 課

### 学 生 課

ご入学心よりお祝い申し上げます。

教務課においては皆様が修学する上において今後、4年間更には卒業されてからもかかわりのある課であります。学科目履修届・受験届・薬剤師国家試験関係等諸手続の窓口、卒業後の就職等に必要各種証明書発行、修学上の疑問点等の相談窓口であり、学生の皆様とは特に密接な関係のある課であります。課員一同誠意を以ってその任にあたる所存ですので、お気軽にご相談下さい。なお、連絡事項等については指定の掲示場に掲示しますので常に掲示には十分注意して頂きたいと思

●掲示場所 正門横、教務課前、本館西2階

新入生の皆さん本学に入学されてほんとうにおめでとうございます。

学生課は皆さんの学生生活に必要な種々な手続きをはじめ日常生活上の相談等に応じる部門です。奨学金、アルバイト、保健衛生等に関することをはじめ、教室その他の施設や物品の使用といった課外活動に関することなどの相談窓口が学生課ですから遠慮なく相談に来て下さい。但し、時間は午前9時から午後5時までで、午前11時30分から午後0時30分までは昼休みです。

皆さんのこれからの日常生活に必要なこと、注意を要することを以下に二、三記載しておきます。なお学生課前の掲示板は常に見るように心掛けて下さい。

#### ◆学生証・印鑑・ロッカーの鍵

皆さんが学生生活をして行くうえで、学生であるという証明として学生証が必要です。それに印鑑、三文判でよろしいから用意して下さい。次にロッカーの鍵も必需品です。ロッカーは必ず鍵をかけるように心掛



# 昭和58年度予算の概要について

事務局長 小 村 俊 夫

去る3月24日の理事会及び評議員会において、昭和58年度予算が決定しましたので、消費収支予算書の総括表に基づいて、その概略を説明します。

消費収支予算書とは、学校財政の各年度における収入、支出の内容及びその均衡を明確にするための目的で、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）で規定され、所定の方式で作成することになっています。

次に別表（昭和58年度消費収支予算書総括表）の勘定科目毎に、その主なる内容及び増減額を述べます。

## 〔消費収入の部〕

学生納付金——授業料、入学金、設備費、維持費を内容としているが、58年度新入生より若干の授業料改定による増はある一方において定員超過分の抑制等により前年度と対比して190万円の減

手数料——入学検定料、試験料、証明手数料を内容と

しており入学検定料の減を理由に、前年度と対比して、252万円の減

補助金——国よりの補助金（研究設備、経常費）であるが、政府の補助金抑制の動向は厳しく、私学に対する経常費補助削減を10%と見積って、前年度対比、4000万円の減

資産運用収入——銀行預金等の利息で、切替時期、運用方法等を考慮して、前年度対比800万円の増

事業収入——学生寮収入で、入寮者、給食数の変動状況を見込んで、前年度対比、68万円の減

雑収入——学生募集要項、その他、また私学退職金財団よりの交付金等を含み、前年度対比、163万円の減

帰属収入——学校法人の負債とならない収入で、前述の各科目の合計で、本年度は、16億1243万円となり、前年度対比、3873万円の減

基本金組入額——固定資産、基金として継続的に保持運用する金銭、その他の資産の額で、これらは取得した当該年度毎に基本金として組入れることになっている。本年度は、土地購入、学生クラブハウスの新築さらに教育研究機器、図書等の購入増等を予定しており、本年度の基本金組入れ額合計は、6億7962万円となり、前年度対比3億613万円の増

消費収入の部合計——帰属収入合計の額から基本金組入額合計の額を控除した額が、9億3281万円となり、前年度対比、3億4486万円の減

## 〔消費支出の部〕

人件費——教職員給与、役員報酬、退職給与引当金繰入額を内容としますが、前年度人事院勧告による給与のベースアップが見送られ、また本年度についても厳しい予想のもとに、前年度対比、1872万円の減

教育研究経費——教育研究用消耗品、光熱水料、通信費、旅費、印刷製本費、修繕費、その他の教育費等を内容としますが、前年度予算積算当時における電力料、ガス料、通信費等の値上り推定額並びに電気幹線改修の実施不能によること、及び前年度学生会館増築改修工事の完成により、前年度対比、1億449万円の減

管理経費——教育研究用以外の一般経費を内容とするもので、事務用経費の節約に努めつつ、建物周辺の環境整備を実施する予定があるため、前年度対費、759万円の増

借入金等利息——私学振興財団及び住宅金融公庫より

けて下さい。盗難が時々ありますから御注意下さい。紛失した時はそのままにせず必ず届け出て下さい。

## ◆健康保険証写しの携帯

皆さんが大学で、または登校途中でケガをした場合など、健康保険証があると随分安価に治療できます。父兄会から一時的に治療費を出しますが、できるだけ無駄な医療費を払わない為にも、健康保険証の写しを携帯して下さい。写しを学生課に提出していただくのもよいかと思います。地方から来られた学生は「在学証明書」を父兄に送り、「遠隔地被保険者証」を取りよせて下さい。

## ◆マイカー通学は禁止

自動車による通学は全面的に禁止しています。どうしても必要な特別な事情がある場合は予め学生課に申し出て下さい。単車は禁止はしていませんが、道路事情が悪く危険ですし、迷惑がかかることが多いので通学には使用しないよう心掛けて下さい。

## 新入生ガイダンス

の借入金に対する利息で、前年度対比163万円の減

予備費——前述の人件費科目において述べました給与の、ベースアップに対する予想金額等を加え、前年度対比、5724万円の増

消費支出の部合計——以上の科目合計で、13億2742万

円となり、前年度対比、6001万円の減

当年度消費支出超過額——3億9461万円となりますが前年度消費収入超過額——3億1464万円を控除しますと翌年度繰越消費支出超過額——7997万円の結果となります。

### 消費収支予算書総括表

昭和58年4月1日から  
昭和59年3月31日まで

(単位円) [消費支出の部]

〔消費収入の部〕			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減
学生納付金	1,086,300,000	1,088,200,000	△ 1,900,000
手数料	52,680,000	55,200,000	△ 2,520,000
補助金	350,000,000	390,000,000	△ 40,000,000
資産運用収入	100,000,000	92,000,000	8,000,000
事業収入	14,000,000	14,680,000	△ 680,000
雑収入	9,450,000	11,080,000	△ 1,630,000
帰属収入合計	1,612,430,000	1,651,160,000	△ 38,730,000
基本金組入額合計	△679,620,000	△373,490,000	△306,130,000
消費収入の部合計	932,810,000	1,277,670,000	△344,860,000

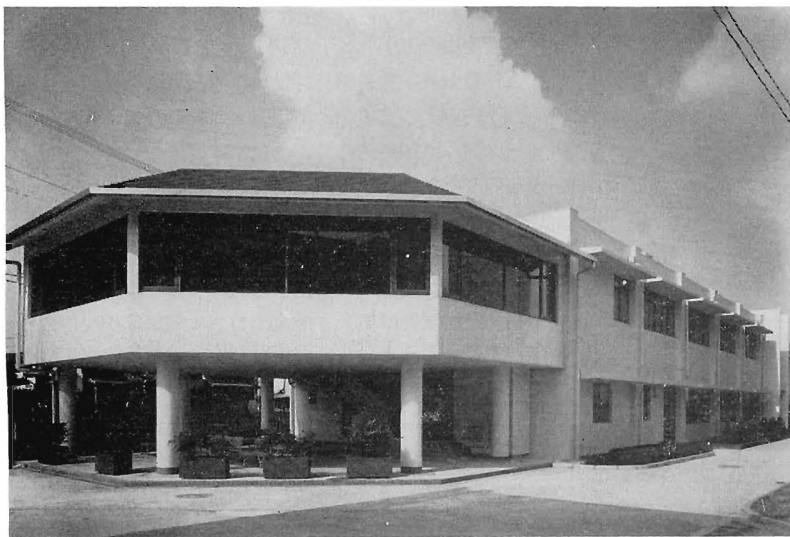
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減
人 件 費	789,080,000	807,800,000	△ 18,720,000
教育研究経費	374,620,000	479,110,000	△104,490,000
管理経費	72,110,000	64,520,000	7,590,000
借入金等利息	24,370,000	26,000,000	△ 1,630,000
予 備 費	67,240,000	10,000,000	57,240,000
消費支出の部合計	1,327,420,000	1,387,430,000	△ 60,010,000
当年度消費支出超過額	394,610,000	109,760,000	—
前年度繰越消費収入超過額	314,640,000	122,710,000	—
翌年度繰越消費収入超過額	0	12,950,000	—
翌年度繰越消費支出超過額	79,970,000	0	—

## 学生会館の竣工及び紹介等について

事 務 局

昭和57年6月30日(学報第5号)において、着工、竣工予定定期等の設計図を併せて掲載しましたが、その後諸

般の都合により竣工期が遅れ、去る2月9日建物の完成をみるに至りましたが、引続き内部設備及び建物周辺の



竣工した学生会館

環境整備も完了しましたので、先般来会館の使用を開始しております。会館はRC2階建、延1687㎡の面積を有し、1階には、ピロティに公衆電話を設置、食堂(180席)放送、購買、談話、暗室、代議員室等を配置、2階には喫茶室(52席)、ホール(154席)執行部、印刷、セミナー(1)(2)、給湯、和室(1)、18畳(2)、12畳の各室…が配置されております。

御承知のとおり新装の学生会館については、使用規程において規定されておりますが、使用時間は平日午前8時30分～午後7時。下駄、スパイク等で出入しないこと、火気、盗難に注意、各室使用

後は清潔に心掛け、戸締りを厳重にし、掲示物は所定の手続を経て掲示板にする等、窮屈な感じのする項目が多くありますが、学生会館は、その名称のとおり、学生の課外活動、学生教職員の福利厚生施設として設置されたもので、諸君の後輩のためにも、より良い状態で維持しながら、学生、教職員の利用を期待しております。

なお、念のため会館2階の南端にありますロビーの屋上に至る階段は、屋上に設置された機器保守のため取替けたもので、屋上防水層保全のためにも関係者以外の立ち入りを禁止いたします。

会館の紹介がいつの間にか若干厳しい面の使用をお願いする結果となったようですが、結論としては、常に清潔を信条として、積極的に使用されるようお願いいたします。



竣工式で挨拶する森下理事長

## ■研究室だより

### 製剤学教室



(前列) 右より2人目西野隆雄講師、3人目酒井清教授、4人目藤原葉子助手  
(後列) 右端中嶋院生、4人目大島院生

#### 教授 酒 井 清

私が製剤学担当として本学に着任してから、すでに十有余年になりました。当時は学校付近も近頃のような住宅地と違い、田畑も多く全くの田園都市の観があって実にノンビリした所でした。また校舎も実習棟はおろか、現在教室がありますA棟東館の研究棟も着工前で出来あがるまで、今共同低温室になっている田中教授の部屋が丁度研修に行っておられて空いていたので、暫らくお借りしておった状態でした。東館竣工と同時に製剤工場の隣りということで1階東寄りの研究室に移りましたが、昭和48年度より、ときの学長に製剤学の講義と実習も担当せよと急遽言われ1ヶ月余りで慌しく、助手とともに

実習の準備をした思い出があります。その後実習棟も完成し実習台も散剤用、液剤用、軟膏用等を入れ、病院薬局における処方調剤と同様に行なうことができるようになりました。

現在教室員としては、私の他西野講師、藤原助手がおります。西野講師は本学赴任時は生薬化学の助手でしたが、生薬化学教室の一本化にとまない、大阪大学薬学部大学院に進学する前、本教室の助手をしていた関係で、昭和56年度より私どもの教室に移籍しました。永年培ってきた生薬化学の新しい知識を薬剤・製剤学の分野に応用するため、高い研究意欲を発揮し、日夜努力を重ねております。藤原助手も特別実習生として昭和55年度に入室以来、一貫して胃液分泌動態の研究に取り組んで着々成果をあげており、また大学院生2名もそれぞれのテーマに励んでいます。

上記のように教室の研究テーマは、従来からの胃液分泌動態に関する仕事と、これに関連づけた生薬成分の薬剤・製剤学的な研究および薬物の唾液中排泄であります。本年度は特別実習生も10名と大幅に増員し合計15名の大世帯です。新しい研究態勢もやっと軌道にのったところで当然スペース、研究機器、器具等は十分とはいえず、とりわけ研究に必要な機器の充足が不可欠の問題となっております。幸に毎年優秀で研究熱心な学生諸君が入室してくれるためか、我々教員と共に、これらの困難に耐え、一丸となって目標の達成をめざして進んできました。今後このよきムードを続け、教室員、学生諸君とも気持ちよく日常の教育、研究活動に従事することができ、あらゆる面で教室が益々充実していくよう考えていきたいと思っています。

#### 道 記

稿を終えてから山根副手が生物学実習兼任として本教室に加わりましたので付記致します。

# 昭和58年卒業生進路決定状況 (58.3.17現在)

## 就 職 部

卒業予定者数 288名

男子 120名 就職希望 95名

女子 168名 就職希望 154名

男子 就職率 =  $\frac{90}{95} = 94.7\%$

進路決定率 =  $\frac{108}{120} = 90\%$

女子 就職率 =  $\frac{151}{154} = 98\%$

進路決定率 =  $\frac{156}{168} = 92.8\%$

全体 就職率 =  $\frac{241}{249} = 97.1\%$

進路決定率 =  $\frac{264}{288} = 91.6\%$

進 路	男子 (%)	女子 (%)	計 (%)
1. 会 社	62 (51.7)	64 (38.1)	126 (43.7)
2. 薬 局 ・ 卸	10 (8.3)	11 (6.5)	21 (7.3)
3. 病 院	13 (10.8)	62 (36.9)	75 (26.0)
4. 公 務 員	5 (4.2)	4 (2.4)	9 (3.1)
5. 教務職員・副手	0	10 (5.9)	10 (3.5)
6. 進学・大学院	14 (11.7)	1 (0.6)	15 (5.2)
7. 病院研修生	4 (3.3)	4 (2.4)	8 (2.8)
8. 就職希望せず	3 (2.5)	3 (1.8)	6 (2.1)
9. 卒後考える	3 (2.5)	3 (1.8)	6 (2.1)
10. 未 定	6 (5.0)	6 (3.6)	12 (4.2)
計	120	168	288

### 男 子

会 社 (製薬・化学工業関係) 51.7%	薬局・卸 8.3%	病 院 10.8%	公務員 4.2%	大学進 院学 11.7%	病院研修生 3.3%	希望せず 2.5%	卒後考える 2.5%	未 定 5%
--------------------------	--------------	--------------	-------------	--------------------	---------------	--------------	---------------	-----------

### 女 子

会 社 (製薬・化学工業関係) 38.1%	薬局・卸 6.5%	病 院 36.9%	公務員 2.4%	副手・ 教務職員 5.9%	大学院 0.6%	病院研修生 2.4%	希望せず 1.8%	卒後考える 1.8%	未 定 3.6%
--------------------------	--------------	--------------	-------------	---------------------	-------------	---------------	--------------	---------------	-------------

### 全 体

会 社 (製薬・化学工業関係) 43.7%	薬局・卸 7.3%	病 院 26.0%	公務員 3.1%	副手等 3.5%	大学進 院学 5.2%	病院研修生 2.8%	希望せず 2.1%	卒後考える 2.1%	未 定 4.2%
--------------------------	--------------	--------------	-------------	-------------	-------------------	---------------	--------------	---------------	-------------



# ドイツ，オーストリアの回想



教授 森坂 勝昭

昨年，オランダでの学会に出張の機会を得て，9月下旬から10月にかけて二週間余り，ドイツ，オーストリア方面に旅行することができた。海外旅行は初めてのこともあり，気候もよい頃であったので，よい旅を経験し印象に残ることも多かった。しかしあれから半年以上も時間が経過したし，記憶も次第に薄れつつある。近頃はヨーロッパに限らず海外への旅行が盛んになる一方で，紀行文など書いても誰方も関心をもって読んでもらえぬとは思いますが，出張の報告の義務もあるようなので，独断と偏見ばかりの内容にはなるとは思うけれども，旅行の回想文の如きものを綴ることにした。

限られた日数でヨーロッパのような広いところへ旅行するには，当然，国や地方を選ばなければならない。それでは何処に行きたいかということになるが，自分の趣味などを考え合わせると，例えば音楽，特に好きな音楽家に関係のある国ということになるので，ドイツやオーストリアがいいなという結論になった。幸い，女房がヨーロッパに2回出かけた経験があり，次の機会はヨーロッパの中旅行をやってみたいと考えていたので，私の鉄道趣味とも考え合わせて，女房同伴で車と列車による旅行を計画することにした。

ドイツ，オーストリアといっても広いから，ドイツはライン河沿いの地方とバイエルン地方，オーストリアはウィーン，ザルツブルク，インスブルックに的を絞ることにした。また，ホテルもできるだけ行き先々の観光案内所で飛び込みで探すことにしたが，この方が却ってスリルのようなものも味わえて，後々回想することも多そうと計画を実行する運びとなった。

## フランクフルトにて

北回りのフランクフルト行の日航機は先づ早朝のハンブルクに立ち寄る。機が着陸姿勢に入り，窓からレンガ積や石積の切妻壁に急傾斜の屋根のドイツの家並がみえてくると，いよいよドイツに来た，ヨーロッパに来たと思わず興奮を覚えた。ハンブルクを発って1時間程でフランクフルトに到着，漸く私はヨーロッパに足を下ろすこととなった。

フランクフルト空港は西ドイツ最大，ヨーロッパでも有数の飛行場とあり，港内，ロビー等は活況を呈している。しかし国際飛行場である以上は成田や伊丹と基本的に変ることはない。空港から車でフランクフルトの市街に入って初めてヨーロッパの街，ドイツの街にお目にかかることになる。

フランクフルトは中世よりの古い歴史をもつ西ドイツの最大級の経済都市である。市内は一方通行が多いために車は何度も右折，左折するので，道路の状況や建物の様子が色々と観察できた。道路は巾も狭く，基盤の目状に走ってはいないし，建物も高層ビルが目につかず，石積みやレンガ積みのせいぜい10階位までの建物が多く，古い趣きの街並である。ただ路面電車はカラフルなヨーロッパスタイルのものが走っていて，街に少しは近代感覚を与えている感じである。

ドイツの大都市は第2次大戦で徹底的に破壊されたようで，フランクフルトもその例外でない。従って私たちが目にしている街並はその復旧後のものなのである。ドイツと日本の戦災都市の戦後の復興が目ざましいことは世界でも有名だが，ドイツと日本とでは復興の状況は極めて相異している。日本の場合は昔のままの都市に戻す



というよりも新しい都市作りによって復興するといっ  
てよく、極端な場合には全く昔の面影の残らぬような都  
市に生れ変わっていることもある。ドイツの場合は昔のま  
まの元の状態に戻すことであって、この方が真の復旧で  
あるといってよい。爆撃で破壊されたケルンの大教会の  
尖塔を、破片を舟念に拾い集めて元の状態に復旧させた  
話は有名である。ドイツ人のこの執拗なまでの古いもの  
を大事にする精神は一体何にあるのか。伝統を重んじ、  
徒らに新奇なものに喰いつかぬドイツ人の性格を反映し  
ているものと思われるが、一面、合理主義で科学性を尊  
重するドイツ人の性格と矛盾するものがある。

一般論になるが、ヨーロッパの家具や調度品などの品  
物は親子何代にもわたって使えるようなものが多く、ド  
イツ製という昔からその定評があるようだ。日本の製  
品、例えば電化製品などをみると見栄がよくて、性能も  
よいが、保障期間を過ぎる頃から故障し始める。こんな  
製品がどんどん海外に輸出されて、日本が経済大国にの  
し上れたのは後めたし、そんな製品はドイツ人は買わ  
ないだろうと思う。ドイツの街を見、ドイツ人の気質を  
検索するとき、日本、日本人との比較を試みたくなる。  
果して日本が真の経済大国になったのであろうかと疑い  
たくなる。

#### ライン河にて

フランクフルトからマインツへは車で30分ぐらい、マ  
インツはライン河とマイン河の合流点にある街である。  
いよいよライン河にお目見えすること  
になる。ライン河はボーデン湖(湖の  
南岸がスイスとドイツとの国境であ  
る)から西へ流れ出、ドイツとフラン  
ス国境に沿って北上したのち、ドイツ  
中部を700 kmにわたって縦断し、オラ  
ンダ領を経て北海に注ぐヨーロッパの  
一大動脈河川である。ドイツにおける  
ライン地帯はドイツの心臓部ともい  
える重要地帯であり、沿岸にはマン  
ハイム、マインル、ケルン、ボン、ド  
ュセルドルフ等の都市が白目押しに並  
んでいる。ラインはマインツあたりでみ  
ると河中も広いが、丘陵地を流れると  
きは比較的にも狭い。しかし水量は  
豊かで、スイス、西ドイツ、オランダ

またはイギリスの国旗を掲げた船がひっきりなしに上り  
下りしている光景をみると、さすが大ラインという貫禄  
が十分である。

マインツからラインを下ってゆくと、兩岸には次々と  
街や村が現われるが、それらの家並は何れも美しい木組  
みに白い壁の切妻壁の姿を河に向けて居並んでいる。そ  
してそれらの街や村には必ずといっていい程、教会の  
姿が目につく。これらの家並みの美しさはラインの景観  
の一つであろう。ラインに山が迫ってくる地帯に入ると  
兩岸に古城の群が現われてくる。有名なライン下りのハ  
イライト部でもある。ローレイの岩屏風はそのライン  
の大きく弯曲するあたりにみられるが、ハイネの詩が余  
りにも有名になり過ぎて、岩そのものはそれ程でもない  
と思われた。

ドイツラインについて忘れてはならぬものにワインが  
ある。ラインのこの辺りは山地を除くほとんどが緩かに  
傾斜した丘陵地帯であり、その大部分がブドウ畑であ  
る。この辺りにブドウが持込まれたのは紀元前であるとい  
われるが、以来、この地帯はこのブドウ畑より作ら  
れるドイツ・ワインの大生産地となった。適度の陽光と  
ラインのもたらす湿気が良質のブドウの生育に適してい  
るためであるといわれ、甘口のラインワインと辛口のモ  
ーゼルワインに区別されるが、ドイツワインとして世界  
にその名が知られるようになったといわれる。

ドイツを訪ね、ラインに来ながらドイツワインを飲ま



ライン河附近にて



ぬ手はない。アルコール類は何でも口にする私だが、残念乍らワインは余り口にしたことがない。ワインといえは昔から赤玉ポートワイン位しか知らないし、あんな甘いやつは男の飲む代物ではないと思っていたのである。

しかし上等のワインの芳香と味が格別のものであると聞いていたが、上等のうまいワインが日本では高価に過ぎるので、口をすることが出来なかったように思う。しかし、ドイツ到着の第1回の昼食の折からワインを頂戴することになり、以後、毎食のようにワインを水代わりに飲むことになった。とにかくここはドイツワインの本場、1本750mlが1000~2000円でうまいワインが飲めるのだから、旅行の記念として毎食励行することにした。

ラインでの第一夜は古城の一つのライヘンシュタイン城に泊った。翌朝、城の番人に城の案内をしてもらったがこの赤ら顔のドイツの大男、側によると物すごくよい香りがする。ワインの芳香が躰全体から発散しているのである。この男一体朝からどんなワインを引掛けてきたのだろうか？ 私はこの男の説明を聞くよりも彼の発する芳香ばかりに嗅ぎとられていたように想い出している。それはラインにおけるワインのよき想い出となった。

#### ウィーン、ザルツブルクにて

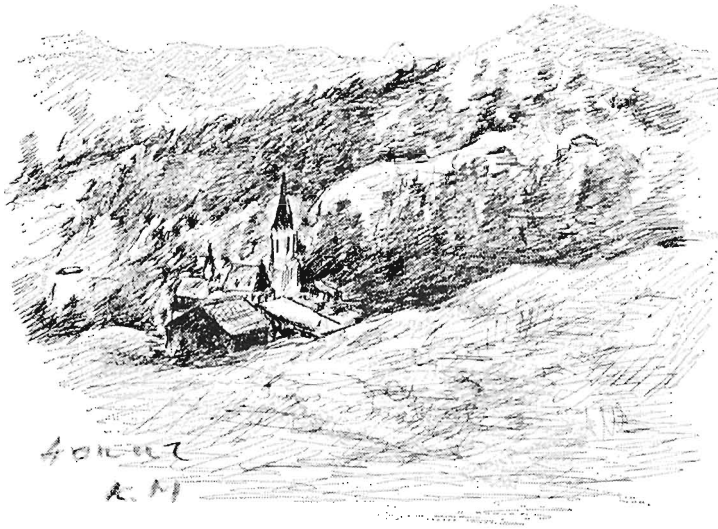
再びフランクフルト空港に戻りウィーンへ飛ぶ。ドナウ河の夕映を窓から眺めるうちに飛行機はウィーンに到着した。

オーストリアという1国の語源は東方辺境の州との意味だそうである。ヨーロッパの東の方にあつて、東の蛮族に対して防衛する地方とのことである。ウィーンはその都として発展し、オーストリアが18~19世紀までヨーロッパの大国として君臨していた頃までは、ウィーンはヨーロッパにおける政治、文化の一大中心地であった。そして今日においてなおその栄光と貫禄は残されているように思われる。しかしウィーンが昔も今もヨーロッパ、否、世界の中心としての地位にあるのは音楽の都としてであろう。オーストリアに生まれたハイドン、モーツァルト、シューベルトやヨハン・シュトラウス父子は勿論のこと、ベートーベン、ブラームスやマーラー等の数多くの他国の作曲家がこぞってウィーンを訪れて作曲し、その名を挙げた。

もともと、音楽は王族、貴族のためにあつただけけれども、ウィーンの市民はこれを庶民のものとし、愛好するようになったと思われる。ウィーン郊外の中央墓地にでかけると、モーツァルト、ベートーベン、シューベルト等の数え切れぬ程の作曲家の墓が一壘に会して並んで



ウィーン中央墓地にて（左モーツァルト、右ベートーベンの墓）



チロルにて

いて、綺麗な花束に飾られて静かな佇まいを見せている。その雰囲気は決して陰気なものではなく、彼等の音楽が何処からか聴えてくるような明るいものであった。

ウィーンの街のリンク（城壁跡の道路）の中心はウィーンの全盛期時代を象徴する数多くの寺院、宮殿、博物館が自白押しに並んでいる。ステファン大寺院はその中でもウィーンの象徴的な建物である。たまたま、私たちが出かけたのが日曜日とあって、ミサが行なわれていた。壮大な大ドームの下で、パイプオルガンと聖歌隊によるバッハのミサの一曲が演奏され、クリスチャンでもない私たちが、敬虔とでもいえる感動を覚えた。ヨーロッパの音楽のルーツは何処にあるか、そんな専門的なことは私は知らないが、教会音楽、すなわち神を讃える音楽、死者の霊を慰める音楽がルーツの一つといえるだろう。もう一つのルーツは舞曲や民謡と思われるが、ウィーンの貴族や市民はこれらの音楽を彼等の生活に不可欠のものとして身につけてきたのである。シーズンともなれば、国立歌劇場はじめその他の会場で豪華なオペラや演奏会が催され、また、シーズンオフでも毎夜宮殿等で演奏会が開かれていて、夜ともなれば彼等は好きな音楽会にでかける。ウィーン市民の服装にしても身のこなしにしても何処か優雅にみえるのは、彼等がこの上なく音楽を好み、音楽が彼等の生活の中の一部となっているからであろう。同じドイツ語を言葉とするドイツ人も

音楽を愛好するが、彼等の音楽には武骨さや遅しさがあるけれども、ウィーンの市民にそれはなく相異なるものが感ぜられた。

オーストリアのもう一つの音楽の街にザルツブルクがある。ウィーン西駅から列車で約3時間でこの街に着く。ザルツブルクは周囲が山々に囲まれ、ザルツザッハ河岸にある小さな美しい都会である。オーストリアにあってウィーンは余りにも大きな都会であるが、ザルツブルクは本当に田舎の街である。しかし、大小の教会、寺院、宮殿、劇場で街全体が出来上がっているので、ウィーンのリニチュア版であるともいえる。今日、この街が世界中に名を知られているのはモーツァルト誕生

の地であることである。

モーツァルトがこの地に生れたことは間違いのないとしても、ザルツブルクはモーツァルトにとって決して居心地のよい街でもなかったと思われ、彼はパリやウィーン等に出かけてばかりで、この街を愛していたか否か、甚だ怪しいところである。しかしこの街はモーツァルトに報いるために、市街に迫る岩山をそのまま舞台に利用した壮大な大祝祭歌劇場を作り、毎年、盛大な祝祭大音楽会を催している。その時期には世界の各地から演奏家や愛好家が集って、ザルツブルクは最大の活況を呈する。モーツァルトの魔笛の演奏をこの会場で聴くのはモーツァルトファンのもっとも贅沢な望みでなかろうか？ ウィーンの墓地の中でモーツァルトは喜んでいるか、ひょっとしたら自分の音楽を売り物にしているザルツブルクに怒っているかも知れない。

ザルツブルクの一晩、私たちはミラベル宮殿で室内楽を聴くことができた。高い天井、大理石造りの宮殿の一間でシャンデリアの灯の下、音楽が聴けるのはヨーロッパに旅した者の特典でもある。後日に出かけたアムステルダムでコンサートへの演奏会場もそうであったが大きさの違いはあっても、高い天井、石造りの共通の、長い残響音による美しいホールトーンである。これはステファン教会の高い天井のドームにおける音楽効果と同一のものであり、このホールトーンこそヨーロッパの音そのものである。当夜の曲目はハイドン、モーツァルト



それにシューマンの弦楽四重奏曲であったが、ハイドンの第一楽章が鳴り出すと、そのホルトーン的美しさに先づ脱帽する。曲が進み、シューマンの曲は余り聴く機会のない曲だったが、チェロが各楽章で活躍し、その音色が又格別で、その日の白眉の曲であった。我が家の音響装置は可成りの金を投じたつもりだったが、決してあのチェロの音を出せるには程遠い、所詮、機械の音は機械の音である。

### インスブルックへ

ザルツブルクを昼過ぎに車で出発する。いよいよレンタカーによる初のヨーロッパドライブである。ハンドルも走行道路も逆のこととて、助手席の私は恐怖心でコチコチに緊張、折悪しく雨模様天候となつて、無事に目的地に着ける様にと、神に祈る気持だった。ザルツブルクを北上すると、間もなく国境を越えてドイツ領に入りキムゼー湖に向う。湖にはババリアの最後の王ルードヴィヒⅡ世が残したヘレンキムゼー宮殿がある。有名なノイシュバーン城とともに狂気王の残した世紀末的豪華内部の宮殿の各間を見て驚くとともに、彼の末路を考えると、哀れでもあった。

恐怖のドライブも対向車線のないアウトバーンに入ると時速150kmのスピードでも何ともなくなる。馴れとは怖ろしいものである。再びオーストリア領に戻り、雨夜の夜間行を終えてインスブルック郊外のチロルの村に無事到着した。やはりこの日はさすがに寝たので、ワインを飲んですぐベッドに潜りこむ。

翌朝、雨も上り村を出て眼下にインスブルックの街を見下ろし乍ら、車を市街に走らす。

インスブルックはオーストリア西部、チロル州の中心地である。アルプスに囲まれて、夏の登山、冬のスキーと観光の街であるが、スイス、ドイツ、イタリアへ通ずる交通の要所にもなりヨーロッパの歴史において古くよりこの街の名は記されている。

マリア・テレジア通りはインスブルックの目抜き通りテレジアの門を潜って通りを進むと、やがて正面の広場にマクシリアン1世の残した黄金の小屋

根が見えてくる。何処の国でも王侯貴族等権力者や富裕家の創り出す産物には一般庶民には想像もつかぬ栄華の象徴的代物があり、稀には高い芸術文化をもつ作品がみられる場合もある。この黄金の小屋根、黄金の厚さはどの位のものかは知らぬが、その価値が黄金そのものにあるのか、それとも作品性にあるのか、理解し難かった。

アリア・テレジア通りは屋前にもなれば大変な人出である。ウィーンでは極く稀に、ザルツブルクでは時々見られたチロリアンスタイルの人々の姿はインスブルックではもう当り前の服装である。ここはやはりチロルの中心地であることが頷ける。そういえば、通りの両側は観光客相手の店々というよりも、この通りがチロルの人々にとっての生活必需品や流行品を取揃えるための通りであることがわかってきた。日本でいえば、信州の松本や長野、北海道でいえば札幌などの繁華街に似たような感じがする。

ウィーン、ザルツブルクそしてインスブルックと私たちはオーストリアの北部を東から西へと急ぎ足で旅行した。オーストリアのごく一部を見聞したに過ぎないが、この国が音楽を頂点として伝統的な文化を保持し、美しい自然、風土と人情でもって他国からの旅人を迎え入れる観光国であることを知ったのである。現世に疲れた私たち旅行者にとってはオーストリアという国は将にメルヘンの国である。



インスブルックにて  
インスブルック、マリア・テレジア通りにて



アイントホーフェン学会にて

インスブルックを出て、再びドイツ領ババリアに入りノイシュバン城を訪ねてのち、ホーデン湖西端のコンスタンツで一泊、翌日はライン河に平行して北上してフライブルクに到着、ここで車を棄てて、列車でオランダに向う。列車はドイツの代表的特急のラインゴルト号、車

輻は重厚そのもの、線路状況も優秀で、静かで乗心地スピード感も満点である。新幹線が電車特急であって、騒音に過ぎるのは比較にならず、改めてヨーロッパの鉄道のよさを確認することができた。

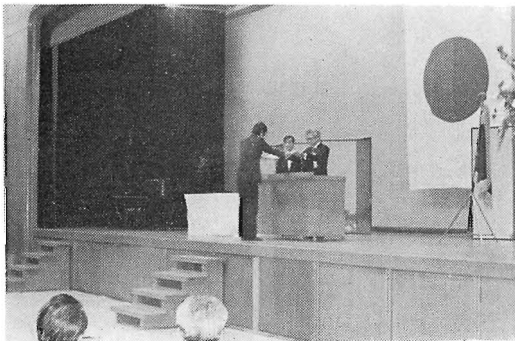
学会にて

10月3日から8日まで第5回 I C E R (国際眼科研究会) がオランダのアイントホーフェンで開かれ、私どもの教室が森本助手の発表で参加、私も出席のためこの度の出張となった。日本からの出席者も多く、名城大薬学部の岩田教授の発表もあった。基礎眼科の学会とあって生化学、理学系の各国研究者の参加がかなり多いことが目立った。森本君の5日の発表も無事終了、9日までアムステルダムその他に滞在し、10月10日予定通りに帰国出来た。

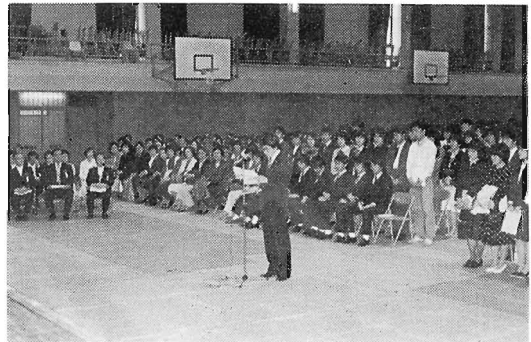
改めて今回の出張を許可された大学当局に感謝して報告と致します。

## 大学ごよみ

- [S57]
- 12月18日(土) 特別実習, 特別講義配属最終決定
- 12月25日(土) 冬季休業
- [S58]
- 1月7日(金)
- 1月8日(土) 冬季休業後期授業開始
- 1月17日(月) 後期授業終了
- 1月19日(水)
- 1月31日(月) 後期試験
- 2月1日(火) 大学院修士論文発表会
- 2月5日(土)
- 2月9日(水) 後期追試験



卒業式



入学式

- 2月9日(水) 学生会館竣工式挙行
- 2月11日(金) 入学試験(志願者数 2,421名)
- 2月18日(金) 入学試験合格者発表
- 2月19日(土)
- 2月28日(月) 後期再試験
- 3月2日(水) 特別実習発表会
- 3月4日(金) 卒業予定者発表
- 3月7日(月)
- 3月11日(金) 最終試験
- 3月16日(水) 卒業予定者, 1~3回生進級発表
- 3月19日(土) 第30回卒業式ならびに第7回大学院修了式(学部卒業生288名, 大学院修了生8名)

## 前期行事予定

4月11日(月) 入学式  
 4月12日(火) 新入生ガイダンス 午後アドバイザー  
 面談  
 4月13日(水) 授業開始 午後2～4回生ガイダンス  
 4月22日(金) 午後学生会館竣工記念祭  
 4月23日(土) 午後新入生歓迎会(学友会卯月祭)  
 4月20日(水) レントゲン検診  
 4月26日(火) レントゲン検診  
 5月9日(月) 本学創立記念日  
 5月10日(火) 健康診断(内診)  
 5月12日(木) 健康診断(内診)  
 5月16日(月) より 単位獲得試験  
 7月11日(月) }  
 9月10日(土) 夏季休業  
 9月12日(月) }  
 9月17日(土) 夏季休業前期授業開始  
 9月20日(火) }  
 9月29日(木) 前期試験  
 9月30日(金) 試験休み

## 人 ◆ 事 ◆ 異 ◆ 動

教務部長発令(58. 4. 1)  
 沼田 敦(教授)  
 就職部長発令(58. 4. 1)  
 酒井 清(教授)  
 薬草園長発令(58. 4. 1)  
 太田 長世(教授)  
 教授発令(58. 4. 1)  
 栗原 拓史(薬品製造学)  
 講師発令(58. 4. 1)  
 藤田 芳一(分析化学)  
 助手発令(58. 4. 1)  
 難波江倫子(有機薬化学)  
 藤原 葉子(薬剤学)  
 山下まゆみ(薬品製造学)  
 春沢 信哉(薬品製造学 新採用)  
 伊東 容子(薬剤学 新採用)  
 土井 光暢(薬品物理化学 新採用)  
 山本 恭子(生物化学 新採用)  
 副手発令(58. 4. 1)  
 山本 恭子(有機薬化学 新採用)

宇佐美秀子(生薬学 新採用)  
 浜崎富美子(生薬化学 新採用)  
 山根 敏子(薬剤学 新採用)  
 中尾ますみ(放射薬品学 新採用)  
 新田智佳子(無機薬化学 新採用)  
 岡田 章子(衛生化学 新採用)  
 配置換発令(58. 4. 1)  
 柴田 恵 助手(薬品物理化学)  
 (石田助教授室へ)  
 中島 真弓 助手(薬理学)  
 (玄番助教授室へ)  
 藤井 香穂 副手(薬品物理化学)  
 (井上教授室へ)  
 秋月 延夫 事務職員 計理課へ  
 事務職員発令(58. 4. 18)  
 松尾 真充 教務課 新採用  
 事務職員発令(58. 4. 23)  
 藤田 純生 庶務課 新採用  
 嘱託発令(58. 4. 1)  
 平野 弘(教授)  
 浅野 忠行(次長, 庶務課長)  
 (併任)  
 山本 あさ(用務員)  
 退任(58. 3. 31)  
 森 逸男教授 教務部長  
 (任期満了につき)  
 太田 長世教授 就職部長  
 (任期満了につき)  
 退職(57. 12. 31)  
 竹村 鶴子(有機薬化学)  
 退職(58. 3. 31)  
 平野 弘 教授(薬品製造学)  
 松島 與和 助手(薬理学)  
 松山 容子 助手(生薬化学)  
 松浦多美子 助手(薬剤学)  
 福本 雅代 助手(生薬化学)  
 赤坂実与子 副手(無機薬化学)  
 神谷 悦子 副手(薬剤学)  
 島田 詩子 副手(放射薬品学)  
 上田 京子 副手(生薬学)  
 三原 京子 副手(薬品製造学)  
 柞山 敏樹 事務職員 計理課  
 解嘱(58. 3. 31)  
 加藤 勇 庶務課労務管理室長  
 梅田 ハル 用務員

# 教員研究業績一覽(1982年度)

## 1 著書, 紀要, 総説, 解説等

著者	題目	書名または掲載誌
宮川 清	Wordsworth's Poetic Theory and Practice	ばいでいあ, 6, 3-25 (1982)
浜中久美子	le Fort の「愛」についての模索	ばいでいあ, 6, 27-34 (1982)
加藤義春	「国民的生産力」批判の方法	ばいでいあ, 6, 89-106 (1982)
稲森善彦	第8章 化学療法剤 第9章 滅菌と消毒	現代微生物学 (朝倉書店)
藤田 直	過酸化脂質と薬物代謝	過酸化脂質の疾患 (医学書院)
森 逸男	第4章 錯体生成反応	基礎分析化学通論 (広川書店)
森 逸男	第Ⅲ章 錯体化学 第X章 容量分析法	分析化学Ⅰ (南江堂)
森本史郎, 玄番宗一	第10章 腎臓に作用する薬物	新しい薬理学第2版 (広川書店)
森本史郎	第1章 一般的注意事項 第2章 実験器具および装置 第3章 溶液調製法 第4章 実験動物の観察と形態解剖 第7章 自律神経系に作用する薬物 第9章 体温に影響を及ぼす薬物 第13章 薬物代謝	薬理学実習書 (広川書店)
玄番宗一	第8章 腎臓に作用する薬物 第11章 コリンエステラーゼ阻害薬	薬理学実習書 (広川書店)
森坂勝昭	消化管潰瘍治療薬の吸収, 分布, 排泄	薬局, 特集「消化管潰瘍 とその治療薬」南山堂

## 2 一般学術論文

著名	論文題目	掲載誌
吉田嶺占	On E-Disjunctive Inverse Semigroups	Proc. of the 6th Symp. Semigroups, 36-38 (1982)
土井 勝, 他	Majorana Neutrinos and $\mu$ -Decay	Progress of Theoretical Physics, 67, 281-296 (1982)



著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
土井 勝, 他	Majorana Neutrinos and $\mu$ -Decay (Addendum)	Science Report, <b>30</b> , 119-132 (1981)
√ 栗原拓史, 谷 力, 那須啓子, 井上正敏, 石田寿昌	Ring Transformations of 6H-Cyclopropa[ <i>e</i> ]pyrazolo[1, 5- <i>a</i> ]pyrimidine. III. Synthesis and X-ray Crystal Structure Determination of a 1-Pyrazol-3-ylpyrrole-2-carboxylic Acid	Chem. Pharm. Bull., <b>29</b> , 3214-3225 (1981)
木村捷二郎, 近藤裕一	放射性有機廃液の焼却のための前処理 —無機塩添加による解乳化と脱水—	RADIOISOTOPES, <b>31</b> , 434-437 (1982)
中村憲史, 松村靖夫, 高岡昌徳, 伊藤勝彦, 森本史郎	High Molecular Weight Renin in the Mouse Kidney	Chem. Pharm. Bull., <b>30</b> , 2208-2212 (1982)
藤本陽子, 藤田 直	Effect of Lipid Peroxidation on <i>p</i> -Aminohippurate Transport by Rat Kidney Cortical Slices	Br. J. Pharmac., <b>76</b> , 373-379 (1982)
藤本陽子, 藤田 直	Effects of Lipid Peroxidation on Prostaglandin Synthesis in Rabbit Kidney Medulla Slices	Biochim. Biophys. Acta, <b>710</b> , 82-86 (1982)
藤本陽子, 三野照正, 藤田 直	Effect of Phospholipase C on Lipid Peroxidation of Rat Liver Mitochondria	Res. Commun. Chem. Pathol. Pharmacol. <b>35</b> , 173-176 (1982)
藤本陽子, 清水計三, 門見和子, 藤田 直	Effects of Lipid Peroxidation, Ca <sup>2+</sup> and Adrenaline on the Release of Fatty Acids from Rabbit Cortex Slices	Biochim. Biophys. Acta, <b>713</b> , 688-691 (1982)
藤田 直, 藤本陽子, 谷岡秀敏	Antioxidant Effects on Prostaglandin Synthesis in Rabbit Kidney Medulla Slices	Experientia, <b>38</b> , 1472 (1982)
藤本陽子, 松井美千枝, 藤田 直	The Accumulation of Ascorbic Acid and Iron in Rat Liver Mitochondria After Lipid Peroxidation	Japan J. Pharmacol. <b>32</b> , 397-399 (1982)
栗原拓史, 那須啓子, 井上正敏, 石田寿昌	Synthesis and X-ray Crystal Structure Determination of 1,4-Dihydrocyclopent[ <i>b</i> ]indoles	Chem. Pharm. Bull. <b>30</b> , 383-385 (1982)
栗原拓史, 那須啓子, 百野順子, 谷 力	Synthesis and Reactions of Ethyl 6-Acetyl-2,3-diphenylimidazo[1, 2- <i>a</i> ]pyrimidine-5-carboxylate and Related Compounds	Chem. Pharm. Bull. <b>30</b> , 1289-1299 (1982)
森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子	Spectrophotometric Determination of Cephalexin and Ampicillin using <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Palladium (II)	Chem. Pharm. Bull. <b>30</b> , 2599-2603 (1982)
森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子, 北野尚子	<i>o</i> -ヒドロキシヒドロキノンフタレインとウラン (VI) を用いるエチル炭酸キニーネの吸光光度定量	分析化学, <b>31</b> , 475-478 (1982)
森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子, 北野尚子	Spectrophotometric Determination of Manganese (II) using <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Zephiramine	Bunseki Kagaku, <b>31</b> , E239-E242 (1982)
森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子	Spectrophotometric Determination of Vanadium with Gallein and Sodium Laurylsulfate	Bunseki Kagaku, <b>31</b> , E193-E198 (1982)
森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子	Spectrophotometric Determination of Papaverine with <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Uranium (VI)	Bunseki Kagaku, <b>31</b> , E77-E83 (1982)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
柴田 恵, 田中千秋, 井上正敏, 石田寿昌	The Crystal Structure of 5-Phenyl-2-oxazolyl Isocyanate Dimer	Chem. Pharm. Bull. 30, 412-418 (1982)
石田寿昌, 宮本洋子, 中村紋一, 井上正敏	Structure of 1-[2-(Adenin-9-yl)ethyl-3-carbamoyl-pyridinium (AC <sub>2</sub> N <sup>+</sup> ) Chloride Monohydrate, a Pyridine-Coenzyme Model	Acta Cryst. B38, 192-195 (1982)
石田寿昌, 宇佐美秀子, 井上正敏, 他	The Stacking Interaction in 9-(Indole-3-propyl)-1-methyl adeninium Iodide Crystal, a Model Study on the Interaction between Tryptophan Residue and Adenine Base in Protein Nucleic Acid Interactions	Biochem. Biophys. Res. Commun. 107, 746-751 (1982)
馬場きみ江, 松山容子, 小澤 貢	Studies on Coumarins from the Root of <i>Angelica pubescens</i> MAXIM. IV. Structures of Angelol-Type Prenylcoumarins	Chem. Pharm. Bull. 30, 2025-2035 (1982)
馬場きみ江, 小澤 貢, 他	Effects of Stilbene Components of the Roots of <i>Polygonum cuspidatum</i> SIEB. et ZUCC on Lipid Metabolism	Chem. Pharm. Bull. 30, 1766-1770 (1982)
馬場きみ江, 松山容子, 石田寿昌, 井上正敏, 小澤 貢	Studies on Coumarins from the Root of <i>Angelica pubescens</i> MAXIM. V. Stereochemistry of Angelols A-H	Chem. Pharm. Bull. 30, 2036-2044 (1982)
森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子	ランタン(III)と塩化セチルトリメチルアンモニウム共存下における3, 4, 5, 6-テトラクロロガレインを用いるトリウム(IV)の抽出-吸光光度定量	分析化学, 31, 99-102 (1982)
栗原拓史, 那須啓子	Reactions of Pyrazolo[1,5- <i>a</i> ]pyrimidine Derivatives with Nucleophiles. III. Nucleophilic Addition to 6,7-Bis(ethoxycarbonyl) pyrazolo[1,5- <i>a</i> ]pyrimidine-3-carbonitrile in the Presence of Triethylloxonium Fluoroborate	Chem. Pharm. Bull. 30, 2723-2731 (1982)
栗原拓史, 那須啓子, 谷 力	Ring Transformation of 6H-Cyclopropa[ <i>e</i> ]pyrazolo[1,5- <i>a</i> ]pyrimidine. IV. Reduction and Reaction of 5a-Acetyl-6a-ethoxycarbonyl-5a,6a-dihydro-6H-cyclopropa[ <i>e</i> ]pyrazolo[1,5- <i>a</i> ]pyrimidine-3-carbonitriles with Primary Amines	J. Heterocyclic Chem. 19, 519-523 (1982)
小澤 貢, 馬場きみ江, 松山容子, 木戸 正, 他	Components of the Root of <i>Anthriscus sylvestris</i> Hoffm. II. Insecticidal Activity	Chem. Pharm. Bull. 30, 2885-2888 (1982)
森 逸男, 藤田芳一, 北野尚子, 坂口紀美子	Spectrophotometric Determination of Thiourea Using <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Palladium (II)	Bunseki Kagaku, 31 E305-E310 (1982)
馬場きみ江, 小澤 貢, 他	Effects of Various Coumarins from Roots of <i>Angelica dahurica</i> on Actions of Adrenaline, ACTH and Insulin in Fat Cells	J. Med. Plant Res. 45, 183-187 (1982)
栗原拓史, 那須啓子, 水原有美子, 林 和江	Reaction of 3-[3-(2-Nitrophenyl)-2-propenylidene]-2,4-pentanedione with Hydroxylamine Hydrochloride. Formation of a 2-Chloromethyleneindolin-3-one	Chem. Pharm. Bull. 30, 2742-2746 (1982)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
中島真弓, 福原厚子, 森本史郎,	A Comparative Study on the Measurement of Urinary Kallikrein in the Rat	Chem. Pharm. Bull. 30, 3328-3332 (1982)
山口秀夫, 有本正生, 田之口真理子, 石田寿昌, 井上正敏	Studies on the Constituents of the Seeds of <i>Hernandia ovigera</i> L. II. Structures of Two New Lignans	Chem. Pharm. Bull. 30, 3212-3218 (1982)
有本正生, 山口秀夫, 他	Hypervalent Organoiodine Chemistry: a New Synthesis of $\beta$ -Methylene Cyclic Ethers	J. C. S. Chem. Commun. 1108-1109 (1982)
田中千秋, 那須啓子, 山本典子, 柴田 恵	Trifluoroacetylation and Subsequent Pyrolysis of 2-Amino-2-oxazolines	Chem. Pharm. Bull. 30, 3374-3376 (1982)
松島与和, 玄番宗一	Stimulatory Action of Verapamil on Transport of Organic Acids in Rat Kidney Cortical Slices	J. Pharmacol. Exp. Ther. 222, 452-457 (1982)
小澤 貢, 馬場きみ江, 松山容子	市販唐独活と関連植物根のクマリン成分による比較および唐独活のクマリン成分について	生薬学雑誌, 36, 202-210 (1982)
森 逸男, 藤田芳一, 坂口紀美子	Determination of Titanium (IV) Using <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Tween 20	Bull. Chem. Soc. Jpn. 55, 3649-3650 (1982)
松村靖夫, 清水利勝, 大野行弘, 森本史郎	Renin Release and Lipid Peroxidation in Renin Granules of the Rat	Chem. Pharm. Bull. 30, 3742-3747 (1982)
田中千秋, 那須啓子, 山本典子, 柴田 恵	Pyrolysis of Benzyl 2-Oxazolecarbamates and Benzyl 4-Alkylallophanates	Chem. Pharm. Bull. 30, 4195-4198 (1982)
沼田 敦, 保木本和子, 山口秀夫, 西田英之	Feeding Stimulants for the Larvae of the Yellow Butterfly, <i>Eurema hecabe mandarina</i> DE L'ORZA (Lepidoptera: Pieridae)	Appl. Ent. Zool. 17, 582-584 (1982)
森本一洋, 武枝敏之, 中元英雄, 森坂勝昭	Effective vaginal absorption of insulin in diabetic rats and rabbits using polyacrylic acid aqueous gel bases	Int. J. Pharmaceutics, 12, 107-111 (1982)
井上正敏, 石田寿昌, 他	The Absolute Configuration of Stephanine and Crebanine	Heterocycles, 19, 1883-1888 (1982)
井上正敏, 石田寿昌, 他	Fern Constituent: Colysanoxide, An Onoceroïd Having a Novel Carbon Skeleton, Isolated from Colysis Species	Tetrahedron Lett. 23, 4349-4352 (1982)
井上正敏, 石田寿昌, 他	An Unusual Transformation of 5-Amino-6-methyl-3-phenyl-4(3H)-pyrimidone with Selenium Dioxide: X-Ray Crystal Structure of 3-Phenylcarbamoyl-4-methyl-1, 2, 5-selenadiazole	Chem. Pharm. Bull. 30, 3424-3426 (1982)
井上正敏, 平野 弘, 杉山和明, 石田寿昌	An X-ray Evidence for the Ring Stacking Interaction between Indole Ring and the Pyrimidine Moiety of Thiamine: Crystal Structure of Thiamine Indole-3-propionate	Biochem. Biophys. Res. Commun. 108, 604-609 (1982)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
石田寿昌, 土井光暢, 奥野寿一, 井上正敏	X-ray Structural Studies of the Interactions between the Components of Protein and Nucleic Acid. II. Crystal Structure of the Adenin-9-ylethylamine: Phenylacetic Acid (1:1) Complex	Chem. Pharm. Bull. 30, 4249-4257 (1982)
石田寿昌, 田中敦子, 井上正敏, 他	Conformational Studies of S-Adenosyl-L-homocysteine, a Potential Inhibitor of S-Adenosyl-L-methionine-Dependent Methyltransferases	J. Am. Chem. Soc. 104, 7239-7248 (1982)
松村靖夫, 大野行弘, 宮脇宣明, 清水利勝, 森本史郎	Effect of Vitamin E-deficiency on Renin Release from Renin Granules	J. Pharm. Dyn. 5, 1030-1032 (1982)
高岡昌徳, 秋山寛子, 伊藤勝彦, 岡村啓史, 森本史郎	Isolation of Inactive Kallikrein from Rat Urine	Biochem. Biophys. Res. Commun. 109, 841-847 (1982)
太田長世, 三野芳紀, 田中和美	漢薬・苦参の生薬学的研究(第2報) 本邦産, 韓国産および中国産苦参について	生薬学雑誌, 36, 339-349 (1982)
瀬尾留美, 森本史郎, 他	High Performance Liquid chromatography of Proteins	Japan. J. Clin. Chem. 11, 342-347 (1982)
有本正生, 山口秀夫, 他	Umpolung of Reactivity of Allylsilane, Allylgermane, and Allylstannae: Allylation of Aromatic Compounds with Allylmetal and Arylthallium Bis(trifluoroacetate)	Chem. Pharm. Bull. 30, 3994-3999(1982)

## 学 位 授 与

### 〔博士〕

井上正敏 薬学博士 (58. 3. 23) 京都大学  
 題目 「アデニン, チアミンおよびフラビンに対するトリプトファンのスタッキング相互作用に関する物理化学的研究」

馬場きみ江 薬学博士 (58. 1. 24) 京都大学  
 題目 「Angelol 型 prenylcoumarin を中心とするセリ科植物成分に関する研究」

### 〔修士〕 (58. 3. 19)

秋山寛子 「ラット尿中の不活性型カリクレインに関する研究」  
 伊藤勝彦 「銅イオンによるラット腎レニンの高分子化に関する研究」

大野行弘 「ビタミンE欠乏ラットの腎レニン顆粒からのレニン遊離に関する研究」  
 赤土博章 「ポリアクリル酸系水性ゲル基剤による [Asu<sup>1-7</sup>]-Eel Calcitonin の直腸投与に関する研究」  
 小久保博雅 「Cimetidine 多形における物理化学的性状の差異及び bioavailability の非同等性に関する研究」  
 野口盛一 「Indomethacin 連日投与ラットにおける小腸潰瘍と薬物の吸収性について」  
 興茂田 敏 「Lactobacillus casei からの Carbobenzoxy 基脱離酵素の精製とその性質について」  
 西浦昭雄 「薬物の唾液中排泄」: Warfarin について」